

修士論文：

イスラエルの超正統派政党と超正統派諸集団の関係について：1980 年代の政党分裂とその背景

共同発表：

The Impact of Israeli State Establishment on Education System: Focusing on Haredi Schools

グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻 博士前期課程

武田朋佳

1 はじめに

筆者は、上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科による「2024 年度グローバル・スタディーズ研究科研究助成金」をいただき、修士論文「イスラエルの超正統派政党と超正統派諸集団の関係について：1980 年代の政党分裂とその共同」の執筆、筆者主催の研究科ワークショップ、How Proximity to the Government Influences Religious Education in Changing Societies（変容する社会における宗教教育：政府との距離に着目して）での共同発表（The Impact of Israeli State Establishment on Education System: Focusing on Haredi Schools）の準備を行った。以下では、修士論文、ワークショップでの発表の順に報告する。

2 修士論文

2.1 本研究の背景

ナショナリズムの担い手であるシオニストと本研究で取り上げた宗教的に保守である超正統派にはイスラエル建国以前から確執の歴史がある。しかし、イスラエル建国の過程で、一部の超正統派は政党を結成し、イスラエルの政治に参加することを選択した。政治に参加することで、超正統派は国家から一定の自律性を得たが、その一方で、国家はさまざまな形で制約を受け続けている。言い換えれば、今日のイスラエル国家を特徴づけているのは、世俗派と宗教派

の間の絶え間ない交渉であり、それは主にイスラエルの政治の中で行われている。

超正統派政党は、一般に超正統派と分類されるさまざまな集団によって設立されてきた。これまでの研究では、このカテゴリーに含まれる集団は見落とされる傾向にあり、それらを取り上げた研究でも、超正統派政党を分析対象とし何かを論じるというよりは、事実を記述することが多かった。そのため修士論文では、超正統派政党アグダト・イスラエルから誕生した2つの新たな超正統派政党が生まれる過程に着目して、超正統派政党と、さまざまな超正統派の集団との関係を分析することを目的としていた。より具体的には、(1) 1984年に起きたシャスのアグダト・イスラエルからの分裂、(2) 1988年に起きたデゲル・ハトーラーのアグダト・イスラエルからの分裂に着目し、主に英語文献を使用した調査を行った。イスラエルや超正統派についての文献は日本国内の図書館への所蔵に限りがあるため、参考文献の一部をいただいた助成金を使用し購入した。

2.2 研究結果

調査の結果以下の点が明らかになった。

1984年のアグダト・イスラエルからのシャスの分裂、1988年のアグダト・イスラエルからのデゲル・ハトーラーの分裂は、18世紀のヨーロッパに既に存在してきた2つの集団（ハシディームとミトナグディーム）の対立構造の影響をある程度受けていた。シャスは、中東・アフリカにルーツを持つ超正統派によって結成された政党ではあるが、ミトナグディームのラビであるシャハによる力添えを受けていた。シャハがシャスの結成を支持した背景の一つには、老舗の超正統派政党アグダト・イスラエルでは、シャハ率いるミトナグディームとハシディズムの下位集団のゲルの指導者との間で緊張が高まっていたことがあると考えられる。

シャハとゲルの指導者の関係はシャス結成後も悪化し続けた。加えて、シャハの嫌うハシディズム下位集団ハバッドが、アグダト・イスラエルのメンバーでないにもかかわらず、アグダト・イスラエルの運営に介入するようになっていた。このため、1988年の選挙では、シャハが自らの政党としてデゲル・ハトーラーを結成した。こうして、1988年選挙では、アグダト・イスラエル、デゲル・ハトーラー、シャスの3つの超正統派政党が存在する状況に至った。

他方で、1988年の選挙でハシディズムの下位集団のベルツは、デゲル・ハトーラー側に加わ

った。このことに上述の2つの政党の結成背景と合わせると、超正統派政党の分裂は18世紀のヨーロッパに既に存在してきた2つの集団（18世紀から存在するミトナグディーム対ハシディーム）の対立の影響を受けてはいるが、超正統派コミュニティにおいて勢力を拡大したいという思いや、自分たちの指導者の権力を見せつけたいという思いの影響も受けている。

ただし、超正統派内での勢力の拡大を求めた政党の分裂により誕生した政党は、必ずしも選挙で議席を獲得できるわけではなく、分裂後に十分な支持を得られず短命で終わる政党や、地方選挙には出馬するものの、国政選挙に臨まない政党も存在する。また、1992年の選挙以降、アグダト・イスラエルとデゲル・ハトラーは、トーラー・ユダヤ教連合として共に選挙に臨んでいる。つまり、政党である以上、超正統派政党もイスラエルの選挙制度に拘束されている。具体的には、主に阻止条項を超えることができる見通しが見つからない政党は、何かしらの超正統派政党と共同で選挙に出るか、吸収されると考えられる。

3 発表

3.1. 背景

発表を予定しているワークショップ（How Proximity to the Government Influences Religious Education in Changing Societies）は、「政府との距離」、「社会の変化」、「宗教教育」をキーワードにしたものである。そのため、本発表では、ユダヤ教正統派による政治運動で、のちに政党になるアグダト・イスラエル（Agudat Israel、イスラエル同盟を意味する。）に着目し、その学校が、イスラエル建国にどのように影響されてきたのかを論じることを決めた。助成金は、調査のための書籍の購入と原稿の英文校閲代に当てた。

3.2. 調査結果

アグダト・イスラエルは東ヨーロッパの正統派ユダヤ教徒による政治運動であり、1912年にパレスチナに到来している。運動の結成の動機には、シオニズムへの抵抗が含まれていたため、パレスチナでは、その原則としてシオニストからの分離主義が採用されていた。そのため、アグダト・イスラエルの教育機関は、シオニストを中心としたクネセト・イスラエル（Knesset

Yisrael)とは別に運営されていた。しかし、ナチス政権の誕生やパレスチナのアグダト・イスラエルの構成の変化を背景に、アグダト・イスラエルのシオニズムへの態度が軟化していく最中、シオニストによって新しい国家が作られることが決まり、アグダト・イスラエルも、国家建設に関与することになった。この結果、それまでシオニストのコミュニティとは別に運営されていたアグダト・イスラエルの学校も、イスラエルの教育制度に取り込まれた。

その結果、イスラエルでは、アグダト・イスラエルによる学校は、非公式の認可された学校(non-official recognized schools)、つまり、公立の学校とは異なる立場にあるが、政府に認められている学校という枠に含まれ、政府からの助成を受けて運営されている。そのカリキュラムには、数学、ヘブライ語、英語、社会、自然、科学、美術、体育、歴史、地理からなる「コアカリキュラム」を含めることを求められているが、それがどの程度実施されているかについては意見が分かれている。

4 終わりに

修士論文は、上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科による本助成金、地域研究専攻による助成金、指導教員である赤堀雅幸先生のご指導と支えによって執筆することができた。ワークショップの発表については、本助成金に加え、共同発表者の協力もあり、厳しいスケジュールの中、なんとか原稿を完成することができた。また、助成金に関する事務手続きについては、グローバル・スタディーズ研究科事務室の佐能さまをはじめとした研究科関係者にご助力いただいた。この場をお借りして、厚く御礼申し上げたい。